

### 【課題認識】

大学を取り巻く環境や社会が大学に求める役割を認識し、これからの大学運営に必要な大学職員に求められる能力、主に情報活用能力を理解するために、現在の大学ではどのような問題が内在しているかをグループで検討した。検討の結果、「学生と大学職員の授業を受講する目的意識の違いがある」「何のために大学に来ているかを見失っている学生が多数いる」「大学職員が学生に対して業務的な態度をとっている」「学生と大学職員のコミュニケーションがとれていない」「学生をどのような人材に育成するかという意識を大学職員が持っていない」「教員と大学職員の関係が良好でない」等の意見が出された。グループでの討議の結果、上記のような問題は、本研修の講義2においても提示していた「大学の使命」を大学職員、教員、学生が意識していない、さらには「大学の使命」とは何であるかという認識を共有していないために発生していると仮定した。そこで、第1に「大学の使命」をグループ討議により明らかにし、第2に、それを大学職員、教員、学生で共有することを前提に、その「大学の使命」を達成するためにはどのような手段があり、その手段に対して大学職員、教員、学生がどのように関わる必要があるか、特に大学職員の関わり方を深く考察することを目的とし、テーマの設定を行った。

### 【討議内容】

最初に、大学職員、教員、学生で共有すべきである「大学の使命」とは何であるかをグループで討議した。ブレインストーミングを行い、様々な意見が出されたが、本グループが考えた「大学の使命」として、2つに集約した。「社会を作り出す人材を育てる」「地域社会に対して貢献する」。本グループでは、特に「社会を作り出す人材を育てる」に焦点を当てた。次に「社会を作り出す人材」に必要な能力をグループ内でのブレインストーミングにより①「行動力」、②「問題解決能力(情報を活用した)」、③「協調性」、④「社会人マナー」の4点に集約した。そして、4点の能力を有した人材を育成するための手段を、その達成の弊害と考えられる大学の状況を明らかにし、新しい発想と大学が抱える情報資産の活用を念頭に置き、それぞれに検討した。

(参考資料1)

- ・「社会を作り出す人材」に必要とされる能力
  - ①行動力…行動力、あきらめない、探究心、考える力、自ら学ぶ姿勢
  - ②問題解決能力(情報を活用した)…即戦力、プレゼンテーション能力、基礎学力
  - ③協調性…チームワークを備えている、リーダーシップ、コミュニケーション能力
  - ④社会人マナー…礼節をわかまえている、身だしなみ、素直さ

### 【提案内容①】

グループ内の討議で、「社会を作り出す人材」の育成に弊害となっている、現在の大学が抱える状況を選定し、それぞれの原因を探り、ブレインストーミングにより、問題を解決する方法を上記した4点の能力別に選択した。

#### ①行動力

現在の大学では、授業の履修を、卒業や単位取得に容易さを目的としているような、学問に対して受け身の学生が非常によく目立つ。この原因としては、第1に、多くの教員が受け身の授業形態で授業を進めていることが挙げられる。第2に、学生が授業の魅力を理解していないために、授業自体に興味はわかず受け身になっていることが挙げられる。この解決方法として、授業を履修する前に視聴覚的に理解できるような高度な電子シラバスシステムの構築を提案した。学生自らが興味を持った授業を自ら選んで受講することで能動的な姿勢を促すことができる。また、学生が能動的に参加できる授業として、企業との共同研究を組み込んだ授業の開講を提案した。企業との共同開発は既に行われているが、それ

は一部の教員と企業の関係で成り立っている場合が多く、必ずしも希望した学生が参加できるわけではない。教員、職員のネットワークを活用し、企業との共同開発を授業として開講することで、学生の授業に対する能動的な姿勢を導くことができる。

## ②問題解決能力（情報を活用した）

グループ討議で、学生の問題解決能力の欠如が挙げられた。そもそも、問題を解決するどころか問題を探そうともしない学生が非常に目立っている。原因として、第 1 に、受け身の座学の授業が多く、問題解決能力を育成する目的の授業が少ないことがあげられる。第 2 に、学生が参加し、自ら問題を解決する企画やプログラムが少ないこと、第 3 に、学生自らが興味を持つテーマを設定し問題提起を行うといった行動に導く情報を得る場の提供ができていないことがあげられる。以上の解決策として、まず、現在の教員主体のゼミではなく、職員主体の、実際の仕事に結びついた学生参加型ゼミ（例：学生に対するアンケートの作成から実施まで）を開講する。次に、現在職員が行っている業務で、学生に依頼することができるような業務を行わせる。また、日本の大学にある書籍をすべてデータベースにし、時と場所を選ばずに情報を見ることができる体制を整える。

## ③協調性

多くの大学で、学生は幅広い世代に対する協調性を育む機会が乏しいことが問題点として示された。学生は、幅広い世代に対する協調性の育成を、バイトなどの社会に依存している。もしくは、大学がその教育を放棄し、社会に任せているといっても過言ではない。大学教職員との交流の場所が少ないことが大きな原因の一つであると考えられる。これを解決するためには、前項でも挙げた、学生への業務委託が考えられる。また、幅広い世代を有する地域との交流を、大学が仲介役となり、積極的に推進していくことが考えられる。

## ④社会人マナー

現在の学生は、挨拶ができない、手紙やメールの文章が相手に対して無礼であるなど、社会人としてのマナーが未熟であることが見受けられる。その原因は、大学に勤める教職員がそのマナーを実践しておらず、また、そのマナーを知らないために学生への指導ができていないことである。まずは、教職員が自らの襟を正すために、就職部やキャリア関係部署の情報等で、社会人マナーのマニュアルを作成し、それを実践することから始め、学生への指導へと展開することが望ましい。また、作成したマナー等を授業等で初年次から教育していくといった、社会人マナー教育のカリキュラム化が必要である。

## [提案内容②]

上述した提案は、大学職員、教員、学生が大学の使命「社会を作り出す人材を育てる」を共有し、それを達成するためのアクションであることから、その実効性や効果を示すためには、「社会を作り出す人材」の育成度合いを定期的に調査する必要がある。まず、育成目標として挙げている 4 点に関しては、学生には自己評価アンケート、教職員には、関係している学生に対する評価アンケート、学生の就職先や、授業等で関係した企業や団体、または、地域の方々の学生に対する評価アンケートを実施、分析を行い、その実効性と効果を検証する。その結果から、大学職員、教員、学生の 3 者で大学の使命を達成しているかを確認し、目的意識の共有を図る。